

本校の学力及び学習の状況 ～令和5年度 全国学力・学習状況調査～

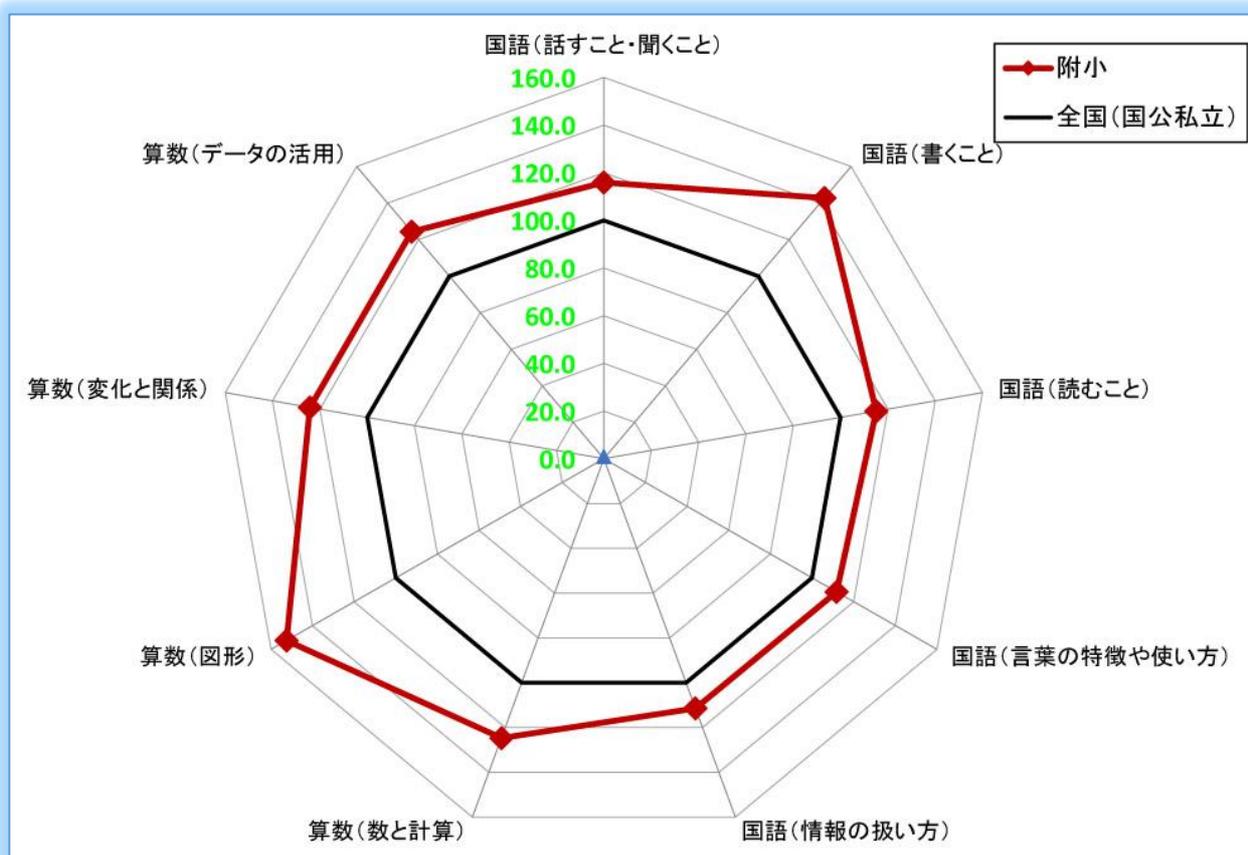
副校長 齊藤 誠

今年の4月18日に、令和5年度全国学力・学習状況調査が実施され、本年度の調査結果が7月末に公表されました。

本調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、国等の教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることなどをねらいとしています。

1. 国語、算数及び理科の全国平均との差について

本調査は、第6学年を対象に、今年度は国語、算数の2教科で調査を実施しており、本校第6学年児童の調査結果の概要は次の通りです。



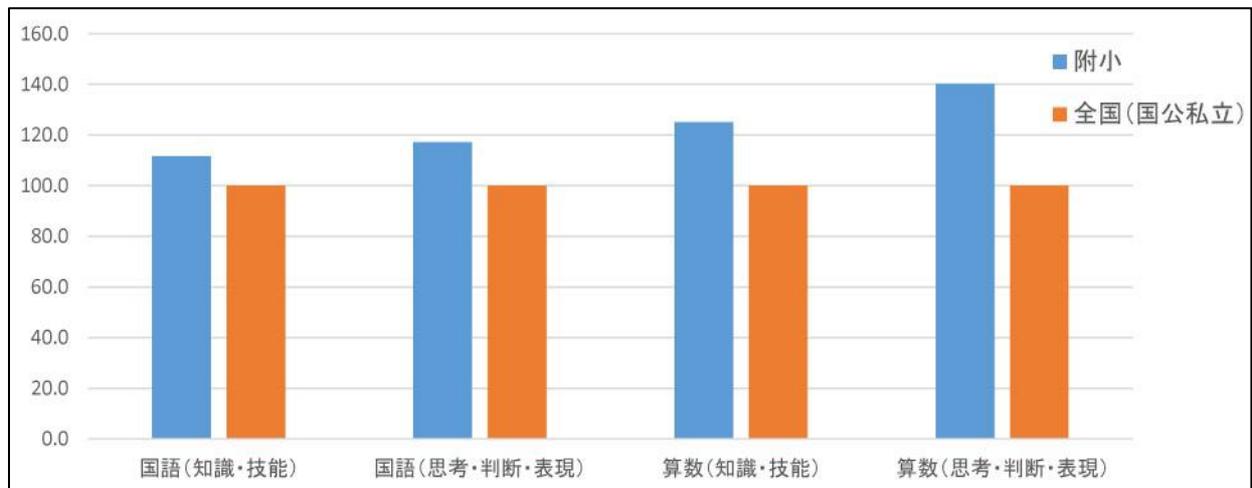
教科の領域別に全国を100とした場合の本校の状況をレーダーチャートで示したものです。
(本校の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。例えば、「算数の計算は苦手だが、どのようにしたら問題を解決できるのか考えることは大好き」、「うまくできなくてもあきらめずに最後まで考え抜ける」というように、学力の別の面で秀でている児童の実態までは十分に把握できない場合があります。そのため、本校では、本調査と日頃の学習の状況を総合的にとらえて児童の学力を把握するよう留意しています。

【国語・算数の調査結果について】

全ての教科・領域で全国平均を大きく上回っていますが、特に、国語の「書くこと」、算数の「図形」は全国平均を100としたときに40ポイント以上回っています。

また、調査内容を、「知識・技能」「思考・判断・表現」に分けて比較すると、本校の児童は、国語、算数、どちらの教科でも「思考・判断・表現」の方が高いことが分かります。



本校児童の「思考・判断・表現」が高いという傾向は、本校教員の授業づくりや、普段の児童の様子とも合致しており、予想通りの結果であったととらえています。では、普段の国語、算数の授業ではどのような授業を行っているのでしょうか。国語、算数に分けて、授業の具体的な場면을基に考えていきます。

国語

この授業では、
「⑩、⑪段落には、

どのようなことが書かれているかな？」と教師が質問しました。児童は、これまでに学習したことのある文章の構造を思い出し、「この文章でも、以前読んだ文章と同じように『問いの文』『答えの文』という順序で書かれているのではないか」と予想しながら文章を読みます。このような読み方を低学年から経験しています。



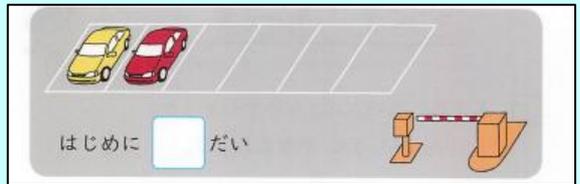
そのため、単に文章を読み、書かれている内容を読み取るだけではなく、読みながら文章の構造を理解したり、複数の文章を比較することで文章表現の工夫や効果について理解を深めたりしています。本校においては、こうした「読み」の学習が「書く」力を高めていると考えています。

また、「話す」力を育成する授業では、児童が単に話す経験を積むのではなく、友達の発表や手本となるスピーチをよく聞き、「例えを出していて分かりやすい」「データを示していて説得力がある」「問い掛けながら話していた」「聞き手が分かっているか確認しながら話していた」など、よい点を見つけながら聞く活動を大切にしています。よく「聞く」ことが「話す」力を高めています。

このように、「読む」「書く」「話す」「聞く」を細切れに学習するのではなく、関連付けながら学習できるよう授業を工夫している点も、本校の児童の高い国語力を支えている理由の一つであると考えています。

算数

算数の授業では、「なぜそのように考えたか」「これまでの学習との違いは何か」など、授業の中で思考力を高めることを大切にしています。そのため、「答えが分かったからおしまい」ではなく、答えが分かってから授業が始まることがよくあります。



この授業では、初めに車が2台駐車していることを確認した後、「□だいふえると、なんだいでしょう？」と黒板に書きました。児童からは、「□じゃ分からないよ」という声が聞こえてきますが、「もし、1台増えたら、 $2 + 1 = 3$ で3台だよ」と、解決のアイデアを提示してくれる児童が出てきます。このようにアイデアを出し合いながら、問題を解決する方法を学んでいきます。



すると、児童の中から、「何台まで増やせるんだろう？」と新たな疑問が出てきます。駐車スペースの中に何台まで止められるのか、試行錯誤が始まります。「3台入ったら、 $2 + 3 = 5$ だから、5台だ。」「5台入ったら、 $2 + 5 = 7$ だから、7台だ。」「え、それだとはみ出しちゃうよ」と、児童は考えることを楽しみます。

また、児童は自覚していませんが、この学習は、「駐車場には車を6台まで止められます。初めに2台駐車しています。あと何台止められるのでしょうか。」という引き算の問題につながります。足し算の学習で試行錯誤した経験があるほど、引き算の学習ですっと理解できることがあります。

本校では、このような算数の学習を低学年から積み重ねています。この積み重ねが6年生での高い算数力につながっていると考えています。

2. 学習状況について

本調査では、各教科の学力の他に、質問紙による調査も実施しており、学力に影響を及ぼすであろうと考えられる様々な要因についての本校に実態を知ることができます。

質問内容	附小	全国
朝食を毎日食べていますか。	90.2	83.7
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	44.3	38.1
自分には、よいところがあると思いますか。	63.9	42.6
将来の夢や目標を持っていますか。	65.6	60.8
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） ※30分以上読書をする回答した割合	50.8	37.5
読書は好きですか。	68.9	39.6
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。 ※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合	95.2	80.9
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。 ※「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合	93.5	80.4

学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。	86.9	67.5
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。	52.5	30.7
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	77.0	64.5
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	83.6	73.0

※回答は、「当てはまる」の数値です。「どちらかといえば当てはまる」は含めていません。
 (設問は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」)
 ※全国平均は、全国の国公私立の小学校の平均値の合計 (%) です。

全59問の質問の中から上記の内容を取り上げました。これらの項目は、すべて全国平均を超えています。超えている質問項目だから紹介したわけではありません。

過去に全国学力・学習状況調査を実施した際、全国の中から抽出された一部の学校で、保護者を対象とした調査も実施されました。その過去3回の調査結果と児童の質問を関連させて分析した、「保護者に対する調査の結果を活用した効果的な学校等の取組やコロナ禍における児童生徒の学習環境に関する調査研究(国立大学法人お茶の水女子大学)」という調査研究があります。この調査研究では、世帯年収、親の学歴・職業などの家庭の社会経済的背景が児童の学力に与える影響を分析しており、転じて、家庭の社会経済的背景の影響を克服した児童の特徴についても分析されています。

その中で、「社会経済的に不利な家庭でありながら高学力を達成している児童生徒の特徴」として、右囲みのような特徴がありました。

とりわけ、規則正しい生活習慣、自己肯定感や最後までやり抜く力など(いわゆる「非認知能力」)が高いこと、幼少時の絵本の読み聞かせ経験などが関連していることが分かりました。

これらは、因果関係ではないので、「保護者が絵本の読み聞かせをしたなら学力が高くなる」とは一概にいえませんが、関連性はあるようです。

本校の児童においても、実感として、全国の児童の傾向と同様の傾向があると考えています。あなたの御家庭のお子様は、上記の質問事項について、肯定的な回答をしますか、それとも、否定的な回答になりそうですか。

保護者の皆様におかれましては、本校における全国学力・学習状況調査の分析が、規則正しい生活習慣の確立、お子様への肯定的な言葉掛け(努力を認め、結果を一緒に喜ぶ)、親からの読み聞かせなど、お子様との日常的な関わり方について、今一度振り返っていただくきっかけになれば幸いです。

小6

- ①生活習慣(朝食)
- ②自己肯定感(「自分には良いところがある」)
- ③最後までやり抜く力(「書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」)
- ④保護者の特徴:「絵本の読み聞かせ」「学歴期待」
- ⑤ICT活用の有用性の認識(「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」)
- ⑥学級での対話(「学級活動における学級での話し合いを生かして、努力すべきことを決めて取り組んでいる」)
- ⑦教科学習の有用性認識(「国語の授業で学習したことは社会に出たときに役に立つ」)

文部科学省webページ「令和4年度 追加分析報告書」の、「保護者に対する調査の結果を活用した効果的な学校等の取組やコロナ禍における児童生徒の学習環境に関する調査研究(概要)」から引用